



### 過去に日本共産党議員の追及で6億3千万円（米原市分約1億円）返還させる

# 施設更新や改築でムダを繰り返すな

日本共産党長浜市議の杉本議員は3月31日開催された湖北広域行政事務センター議会において、クリスタルプラザの施設について、質問を行いました。湖北広域行政事務センター議会は米原市から4名、長浜市から12名で構成しており、日本共産党議員団では浅見・杉本の両長浜市議が選出されており、米原市議団からは選出されていません。市民の暮らしに直結する事務センター業務をより良くするためには、両議員団が協力していかなければなりません。

本年7月の長浜市議会議員選挙では4名（竹内、浅見、斉藤、鬼頭）の予定候補の勝利と来年の4月の県議選長浜市区では杉本市議が立候補を予定しており、米原市議団としても湖北初の共産党県議誕生のため支援の輪を広げていく必要があります。

## 杉本市議の一般質問の概要

センターのゴミ焼却施設クリスタルプラザ（長浜市八幡中山町）は、1999年3月竣工、総事業費は74億7千万円でした。その後、入札に参加した三菱重工、川崎重工、JEFエンジニアリング、タクマ、日立造船の5社が談合していたことが発覚し、当時の日本共産党議員が「不当に高い工事費の返還をもとめるべきだ」と追及し、センターは訴訟を提起。大阪高裁は2009年、三菱重工に賠償金6億3千万円余を同センターに支払うよう命じ、これが返還されるという経緯がありました。

## 3年で休止の焼却灰溶融炉

地下一階から地上5階までの巨大な焼却灰溶融炉が、焼却炉と併設されて建設されました。灰溶融炉とは、ごみの焼却により生じた不燃物（残渣）や飛灰を高温で溶かす炉のこと。焼却灰を溶融炉内で1300℃で液化させ、さらに冷却して溶融スラブとすることで、焼却灰の減量が図られるとされました。灰溶融炉を動かすためには燃料が必要であり、CO2など温室効果ガスを発生させることや液化させた段階での重大事故が相次ぎ、プラントとしての完成度に疑問の声が высказано。

センターの焼却灰溶融炉の建設費は約12億円。しかし、建設から4年目にして休止にされ、今日まで一度も運転されていません。杉本議員の休止の理由の質問に対し、センター当局は、大阪湾フェニックスへの搬入と比べ、燃料費などの経費が高いこと。また、溶融スラブが品質面で有効利用につながらないことを明らかにしました。

杉本議員は、「焼却灰溶融炉は未完成の技術でありながら、三菱重工など大企業のための国策による補助制度にのって造られたものだ。国の責任は重大だが、当時のセンター執行部の検討不足もいめない」と指摘しました。

## ガラス瓶電動搬送設備はすぐ撤去

センターはガラス瓶の選別純度を高めるために、ガラス瓶の選別施設を整備しました。しかし、ガラス瓶の電動搬送設備はほとんど使うことなく撤去してしまいました。

杉本議員は「建設直後に撤去した理由はなにか」との問いに、センター当局は「設置後、

地元自治会から、ガラス瓶の選別作業で発生する騒音への苦情が寄せられたため、撤去した」と答えました。

杉本議員は、「ここにも施設建設時の検討不足があることを指摘しました。」

## ガラス工場の溶融炉は売却

センターのガラス工房は、1階の吹きガラスによる作品制作をおこなうホットワーク室と2階のトンぼ玉などの製作をおこなうバーナーワーク室があります。現在、1階のホットワーク室は休止しており、2008年にガラス溶融炉を廃止・売却しました。その理由について、センター当局は「ガラス溶融炉は、一旦火を落とすと内部で溶けたガラスが固まり、るつぽを新しいものに交換するなどの調整が必要となることから、24時間連続運転をおこなっていた。これによるガス料金が年間約300万円かかる。他方利用者は2006年～2008年に11人しかなく、費用対効果の面から、溶融炉を休止し、吹きガラス体験を中止した」と答えました。ここにも、クリスタルプラザ建設当初の見通しの甘さがありました。

## 煙突の時計は止まっている

焼却施設の煙突には3方向から見える、ひょうたん型の時計が設置されています。この時計の建設事業費は2～3千万円といわれています。時計が停止している理由は、「東日本大震災のあと、日本全国の電力需要がひっばくし、節電につとめるため、時計機能を停止した」とセンター当局は答えました。

杉本議員は、「以前から『時間がわかりにくい』という声も出されており、停止していても都合がないのなら、はじめから巨費をかけてつくるのが問題だったのではないかと指摘しました。」

## 教訓を今後活かす！

杉本市議は、「巨大な焼却灰溶融炉をはじめ、クリスタルプラザ建設には多くのムダな投資がある。今後、センターの諸施設の更新や改築が予定されているが、このようなことがくり返されないようにするべきだ」と主張しました。管理者は「そのようにしていきたい」と答えました。

